

(5) 東海



東海地域では、景気は緩やかな回復基調が続いている。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す
(は上方に変更、 は下方に変更)

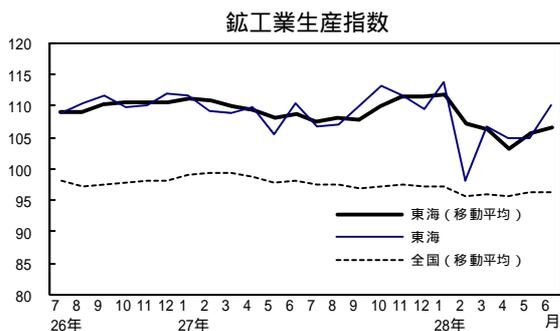
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 28 年 5 月)	今回 (平成 28 年 8 月)	
景況判断	一部に弱さがみられるものの、緩やかな回復基調	緩やかな回復基調	
鉱工業生産	おおむね横ばい	持ち直しの動き	
住宅建設	増加	おおむね横ばい	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられる。

4～6月期には、輸送機械は、自動車部品が増加したこと等から増加した。はん用・生産用・業務用機械は、繊維機械等が減少したことから減少した。電子部品・デバイスは、スマートフォン用電子部品等が減少したことから減少した。化学は増加した。プラスチック製品は、工業用プラスチック製品等が増加したことから増加した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		1～3 月期	4～6 月期	4月	5月	6月
輸送機械	36.5	4.5	3.8	3.4	2.9	6.0
はん用・生産用・業務用機械	9.9	5.4	1.7	1.4	2.7	0.0
電子部品・デバイス	9.5	7.1	10.2	2.5	3.4	5.2
化学	6.9	2.7	6.6	10.2	0.0	2.5
プラスチック製品	5.9	7.3	3.4	1.0	0.7	6.7
鉱工業	100.0	4.7	0.4	1.5	0.1	4.9

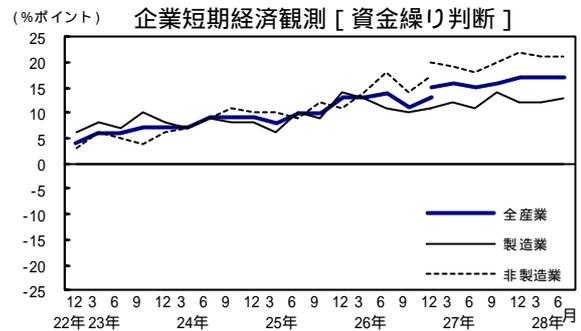
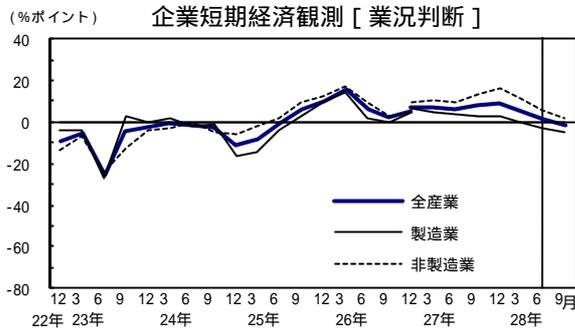
(備考) 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

(備考) 1. 22年=100、季節調整値。

2. 全国及び東海の太線は後方3か月移動平均。

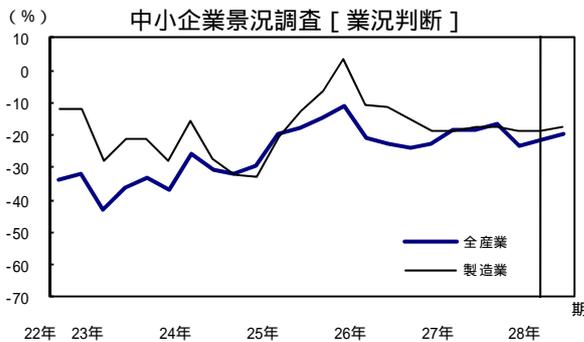
(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超幅が横ばいとなっている。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。28年9月は予測。
26年12月は新・旧基準を併記。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
26年12月は新・旧基準を併記。

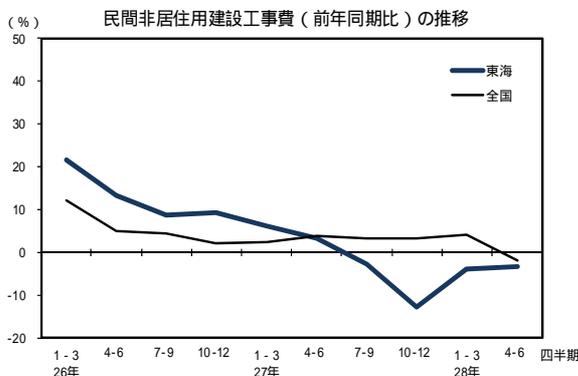


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。28年 期は見通し。
中部地区。

景気ウォッチャー調査(7月調査結果)[企業動向関連(現状)]

「お盆を前に取引先でリニューアルする店舗が多いため、当社製品の生産・出荷が増えている(電気機械器具製造業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は減少している。



企業短期経済観測調査 [設備投資(6月調査)]

	(前年度比、%)	
	27年度実績	28年度概
全産業	14.2	11.3
製造業	16.6	12.4
非製造業	11.5	9.9

(備考) 22年度以降は、計画はリース会計対応ベース。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

4月は前月比0.5%増、5月は同1.0%減、6月は同0.2%増となった。

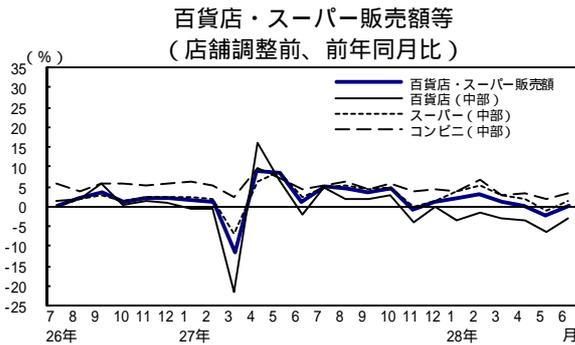
百貨店・スーパー販売額

百貨店は、4～6月期に衣料品が振るわなかったことから、前年を下回った。スーパーは、飲食料品、衣料品に動きがみられたことから前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (7月調査結果) [家計動向関連 (現状)]

東海地域の家計動向関連DIは、44.0となり前月より4.7ポイント上昇した。

「全体的に客が必要とする量以上は売れず、単価的にも安い物しか売れない。この傾向がずっと続いている (スーパー)」など「変わらない」とする回答が増加した。



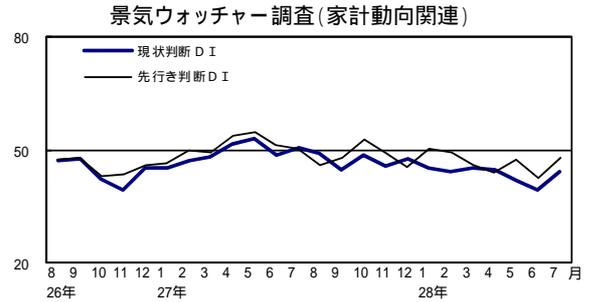
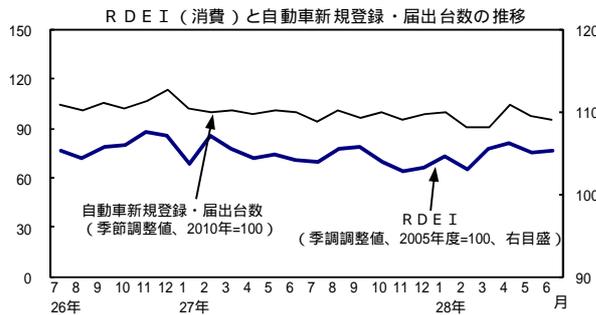
	28年4-6月	28年4月	5月	6月
RDEI (消費*1)	1.0	0.5	1.0	0.2
百貨店・スーパー(*2)	0.6	0.3	2.4	0.1
百貨店(*2)	4.5	3.7	6.6	3.2
スーパー(*2)	0.7	1.7	0.9	1.3
コンビニ(*2)	2.7	3.2	1.8	3.1
乗用車(*3)	1.5	4.4	1.3	5.7
(季節調整値)(*3)	5.5	14.3	5.9	2.4

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

百貨店、スーパー、コンビニは、中部

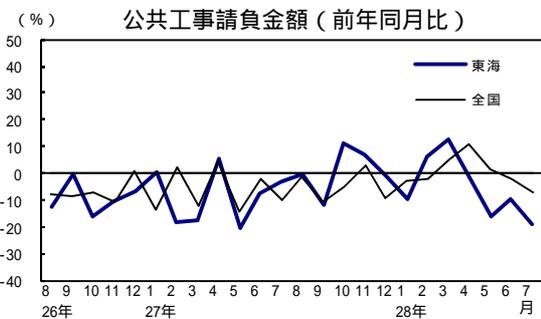
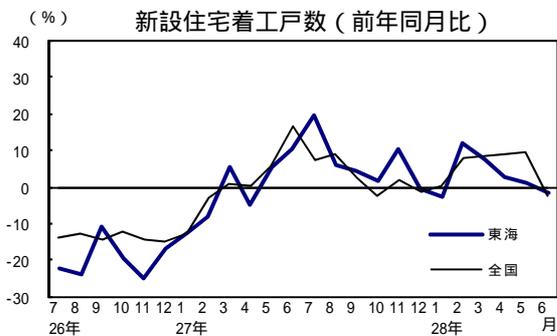
3. 乗用車は、新規登録・届出台数 (上段は前年同期(月)比 (%))



(2) 住宅建設はおおむね横ばいとなっている。

貸家が前年を上回ったものの、全体ではおおむね横ばいとなっている。

(3) 公共投資は28年度累計で見ると前年度を下回っている。

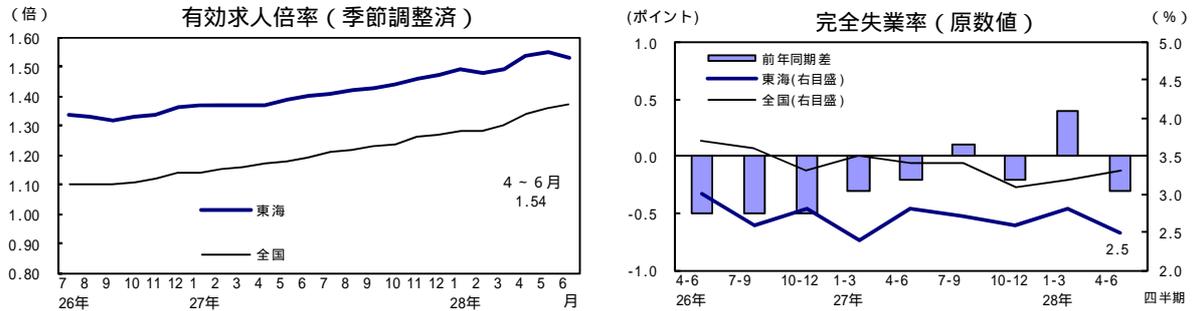


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (7月調査結果) [雇用関連 (現状)]

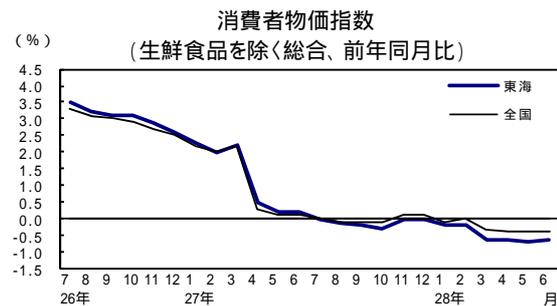
「自動車メーカーでは、随時人材を募集して生産体制を維持している(アウトソーシング企業)」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数は減少しているものの、負債総額は増加している。

(3) 消費者物価指数は、前年比の下落幅が拡大している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	27年7-9月	10-12月	28年1-3	4-6月	28年7月
倒産件数	251	215	244	271	88
(前年比)	7.0	21.2	2.0	4.6	2.3
負債総額	487	319	386	535	150
(前年比)	1.2	16.9	46.1	6.6	61.1



景気ウォッチャー調査 (7月調査結果) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・夏休みが始まり、富士山へも人が来るようになった。天気が良ければ、商売には良い影響が表れる(観光名所)。

<先行き>

・新作スマートフォン向けゲームの登場で、モバイルバッテリーの売行きが良い。スマートフォンの買換えも進む(家電量販店)。

景気ウォッチャー調査
(合計：家計動向関連+企業動向関連+雇用関連)

